

3. 介護する男性が主宰するケアメングループ 広島市安佐南区「4木の会」の取り組みから

戎 世伊次

司会：井出さん、ありがとうございます。支援者からの報告が2本続きましたが、次は、男性介護者自身が運営している実践です。広島県安佐南区の男性介護者の会「4木の会」の代表をされている戎世伊次さん、よろしくお願いします。

失礼します。私、広島の安佐南区、ご承知のように昨年の8月に土砂災害に遭ったところでございます。私、4木の会と申しますのは、毎月第4木曜日、集いをやっています。場所は安佐南区の福祉総合センター6階でやっております。現在、男性介護者が登録メンバーが46名で平均年齢が74歳です。老老介護ですね。

そこで、毎月やってはいますけれども、お集まりいただいているのが、平均大体14～15人ぐらいですかね。内訳を申しますと、夫の方が、奥さん、親御さんを介護されている方が23名、息子さんが介護されている方が4名、介護OBが5名です。支援者は専門職の方が12名、その他2名ということで46名ということでございます。その他の2名というのは、現在認知症にかかわっていない家族を心配して勉強のために参加しているというのが2名でございます。今後、こういった方が多くなるのではなかろうかなと思っております。

私どもは設立したのが平成23年8月でございます。それから1年半ぐらいたちまして、同じような集いをしていましても、座談会をやっていましても、なかなかこれは先々行き詰まってしまうのではなかろうかということで、いろいろ世話をしているものが2～3人いますけれども、話をする中で、これじゃあどっちみち、先々人数は固定化して少なくなって、だんだんじり貧になるのではないかなというふうな悩みがありました。

その中で安佐南区に10カ所公民館がございますけれども、たまたま私はその1カ所の公民館に講演会といいますか、そういったところで私も参加してお

りました。これはちょっと公民館を利用する手はないだろうかと思ひまして、公民館の担当者とお話しして、男性介護者の体験談のトークを地域の皆さんに聞いてもらおうではないかということで始めました。

そうして話をしている最中にやはり隣接する公民館のほうからたまたま昨年の認知症の人と家族の会の出前講演がその公民館であったそうです。そこで行政の担当者がやはり聴講しておりまして、「これは何かできndろうか」というお話がありまして、私のほうに話がございました。早速、そちらの公民館の担当者とお話しするなかで、ぜひやらせてほしいというお話を申し上げ、先にお話ししました公民館のほうは2番手でお願ひしました。現在10カ所のうちの8カ所が既に終わっております。

当然、介護者は介護トークというのは皆さん、嫌がります。「なんでわしの地域で介護トークを話せないけんのか」というふうなお話がございましたけれども、だんだんだんだん会を進める中で、「実はわしやりたいんだが」と「やらせ」というお話がございまして、本当にあのときは喜びもひとしお、驚きもありましたね。よく手を挙げてもらったなというふうなことで、その介護トークをお話ししていただきました。

それからもう8カ所済ませて、その間に地域の社協さん、また、町内会の会長さん、大学では広島文化女子大のほうから福祉関係の学生さんに家族の気持ちを伝えてほしいというご要望がございまして、そういったことで、皆さん、いろいろお願ひをしまして、介護トークをさせてもらっています。

それで一番喜んだのは、私どもだけではなくて、会員さんの皆さんが、発表する、原稿を書くのは、まとめて書いて発表する前にいろいろ考えを書きますよね。最初はきつい、きついとおっしゃっていましたが、だんだんとこれに慣れてきまして、最初は緊張して、いくらか終わる間近になって、終わった後になりますとやはり達成感。そういうことがやはり皆さん、目に見えて分かるんですね。非常に喜ばしいことだったと思います。

また、突然、体の調子が悪くなって当日介護体験のトークができないからというお話があるという気持ちがありまして、2人ほどスベアをいつも準備をしておりますけれども、まだいまだかつてそういうふうなスベアを利用することがなくて、非常に喜んでおります。

それと現在、一番困っておることは、やはり私どもは行政の下にありますけれども、行政というのはどちらかといえば、融通が利かないというか、同じ福祉のほうの仕事に携わっているのにもかかわらず、隣合わせに座っていてもなかなか意思の疎通がうまくいっていないというのが多々見られます。そういったときには、必ず行政にその旨を申し出をして、ぜひその辺のところを善処してほしいとお話をしております。

現在また、こういった介護体験を通じながら、地域の方にわれわれ認知症の家族の方、また、介護しておられた方も、やはり地域にとって迷惑を掛けるということは随分あると思うので、そういった意味ではお願いもしたり、協力もお願いしています。

このたび、ことしの秋口になろうと思うんですけれども、安佐南区の健康長寿課のほうで、大きな認知症に関するイベントをしたいと。これは安佐南区の文化センターで開催されるそうですが、これにもひとつ携わってくだらないだろうか、参加してくだらないだろうかというお話がございます。誠に私どもにとっては非常に喜ばしいことで、ぜひともこれをやっていこうとみんなで話をしておるような状態です。

こういった介護というのは一番きついですしね。われわれが話をしていますが、なかなかいいお話はないです。身近に死というのがちらついております。そういった意味からいけば、こういったことについてはやはり社会に、地域に分かってもらいながら、理解してもらいながら、また認知症の介護をしておる身でありますので、そのところをやはり認知症に対する啓蒙、啓発といいますか、そういったことを働き掛けていかなければいけないんじゃないかなと常々思っております。

資料

- (1) プロフィールシート
- (2) 男性介護者4木の会が行ったイベント紹介

<資料 (1) >

2015 年 3 月 7 日 (土) 男性介護シンポジウム

プロフィールシート

No.1

(記入者： 戎 世伊次)

1. 団体名	広島市安佐南区男性介護者「4 木の会」
2. 代表者	戎 世伊次
3. 所在地	〒 73101 広島市安佐南区中須 1 丁目 3813
4. 連絡先	TEL 082-831-4942 FAX 082-870-2255 E-mail seiji0125@hi2.enjoy.ne.jp
5. 設立・活動時期 (貴会のチラシやパンフ資料等を添付してください。)	① 2011 年 8 月発足 現在 会員の平均年齢 74 歳 ② 設立のきっかけ・動機 2011 年 6 月の中国新聞記事【男が背負う介護「私のいっぽ」】にあった「男の介護者同士、愚痴を言ったり助言し合ったり出来る仲間がつくれたら、どんなにうれしいだろう。孤立したくない。障害があっても介護していても、地域や社会と繋がっていたい。一人じゃないと言う安心感が、明日を生きる力になるから」ということ。当時介護生活の中で、「男同志、愚痴をこぼし、弱音を吐きたい」、「男性介護者の仲間を」と考え現在に至っています。
6. 会員数 (男性介護者の事業に参加する人について、大凡で結構です)	* 約 (46) 人、(内、夫 23 人、息子 4 人) * 内訳：①介護当事者(27)人、②介護者 OB(5)人 ③支援者・専門職 (12)人、④その他 (2)人 * 専門職種「安佐南区健康長寿課保健師、地域包括支援センター、社会福祉士、介護福祉士、ケアマネマイスター、学区社協、民児協」
7. 活動内容 (チラシやパンフなどがあれば添付してください)	<u>例会の開催日や大まかな内容 (プログラム)</u> 定例会は、毎月第 4 木曜日午後 1 時より 3 時まで安佐南区総合福祉センター 6 階にて開催。内容については、下記参照。 ①イベント情報。近郊の福祉及び認知症、介護関係についてのイベントを紹介。 ②書籍紹介。例「ボケてたまるか!」62 歳記者認知症早期治療実体験ルポ、著者 山本朋史氏 発行所 朝日新聞出版 等々平均 3 冊程度紹介 公民館活動として。安佐南区内の公民館は、10 ヲ所あり現在 8 ヲ所でイベント実施済。残りの 2 ヲ所については、本年 6 月までに実施予定。全ての公民館を実施後、それぞれ地域の地域性と特徴を勘案し 2 回目以降のイベントに反映させる。

	<p><u>定例会を除くイベント</u></p> <p>①地域学区社会福祉協議会より、高齢化の進んでいる地域の集会所にて、「介護体験を聞こう」と言うテーマにて男性介護者の体験談を話し地域の支援と協力をお願いする。発表者2名、②広島医療生活協同組合（医療生協）「ヘルパーステーション 虹」よりヘルパーとして従事して居られる方々の勉強会の一環、『家族の介護』『母、妻の介護は、介護者の気持ち、家族の思い』ホームヘルパー 70名 2日間にて実施 発表者 4名</p> <p>③広島文教女子大学人間福祉学科1年必須科目1学年50名。「家族の介護者としての思い、サポーターへの支援及び協力のお願い」と言うテーマにて講演をする。発表者1名。④アクティブシニア 脳イキイキ塾 ～認知症の理解と予防～。古市公民館主催にて参加 発表者 1名。⑤安佐北区の健康長寿課より紹介にて。“男性”も“女性”も支え合う介護のカタチ。安佐北区 口田公民館主催に参加 発表者 2名。⑥会員相互の親睦を兼ね懇親会。不定期ではありますが食事会（和食、お好み焼き）昼食時に実施。食事後、認知症カフェ“山水”にて懇親会。⑦「パソコンをつつこう会」を計画中。目的は、情報の収集、メール等による会員各位の連絡、趣味を生かす為の手段として、また認知症予防として企画中です。</p>
8. 活動資金	<p>会 費 [○有 ・ 無] (定例会の都度100円お茶代として徴収)</p> <p>助成金 [有 ・ ○無] (有の場合 円)</p> <p>その他 [有 ・ ○無] (有の場合 円)</p>
9. 協力・連携団体	<p>安佐南区健康長寿課、各地域学区 社協、医師会、歯科医師会、高齢社会をよくする女性の会・広島、県知事認定ケアマネマイスター、安佐南区 地域包括支援センター、広島医療生協、安佐南区内 公民館、社会福祉士、介護福祉士、民児協、医療ソーシャルワーカー、認知症地域支援推進員</p> <p>※ケアマネマイスターとは、広島県独自の制度として、現場の第一線で活躍されている介護支援専門員（ケアマネジャー）の中から特に優れた者を「ケアマネマイスター・広島」として県知事が認定する者です。「ケアマネマイスター・広島」には、ケアマネジャーのトップ・ランナーとしての姿を示して他のケアマネジャーの目標や励みになって行くと共に相談・指導や研修講師などの活動を通じてケアマネジャーの資質の向上を図り県民の介護サービスの質の向上に役立って行く。</p> <p>※認知症地域支援推進員とは、広島市各区の1カ所に配置され認知症疾患医療センター等と連携して認知症の症状に応じた介護や権利擁護等のサービスの提供をする。</p>

10. 活動してよかったこと（具体的なエピソードがあれば添えてください）

公民館活動での介護トークについては、会員の皆様には一度は自分の住む地域以外で発表して欲しいとお願いしていますがやはり色々と抵抗があり、当初、「介護トークは嫌だ」と言っておられた方が2,3ヵ月後に「次は誰が発表するのか？」と言われ、「自分が発表したいと」手を上げられました。このような事は、予想もしていなかった事で積極的になられた方には感謝、感謝です。この事は周りの会員にも良き影響をもたらし、会への愛着も芽生え喜んでます。会員の年齢も最高年齢者87歳、その方が一人での発表となれば30分、40分話すとなれば厳しく工夫が要ります。インタビュー形式であれば可能ではないかと…インタビューする方をマスコミ関係の方（介護の取材された方）に、お願いしこのイベントをマスコミを通じて我々の活動を地域へ伝えて頂き男性介護者を「4木の会」へと誘導して頂きたく考えています。また、マスコミについては、我々「4木の会」の広報担当としてお互いギブ&テイクの関係でいたいと思っています。尚、発表者は、地域の皆様の前で話すと言う事は、若き時と違って発表の原稿の作成、発表時の多少の緊張感と発表後の心地よい充実感、皆様異口同音に「達成感」に喜んでます。現役の介護者については会員さん少数ですのでアピールすべき努力をどの様にするか考慮中です。現在、2回目当たる公民館より次回は、しっかりと地域の要望も入れ準備したいとの事で4項目程度提案して欲しい旨の言葉を頂いている。

11. 活動して困った（困っている）こと（具体的なエピソードがあれば添えてください）

我々「4木の会」の窓口は、行政（安佐南区健康長寿課）で随分お世話になっていますが公民館の活動の中でイベントのポスター、チラシ等の費用はすべて行政、公民館にて負担して頂いています。我々の窓口である健康長寿課予防係と高齢福祉課は背中合わせで当然業務の内容が関連しているにも関わらず意思の疎通が…。民間の企業では、考えられないこと。縦割り業務で仕方ないことなののでしょうか。この事については、行政にその様な事例が出ればその都度申し出をするつもりです。会を開催していると色んな介護風景が見えます。どうにもならない相談がありますが、行政、地域包括支援センター、民生委員と関連する部署と話すのですが、何も手立てができず相談者に報告しますがそう言う案件について私は、無力感にさいなまれます。

12. これからやってみたいこと（活動や組織のこれからの方向性）

現在公民館活動のイベントまた、福祉関係からの介護等の要望があれば積極的にやって行こうと思っています。それが地域へ「認知症について」の啓蒙・啓発に繋がり我々男性介護者また、介護者の支援と協力に結び付くと考えています。また、会の方向性は、介護者を中心に、介護 OB、家族の認知症を心配している方の参加、をサイクルにて介護者の輪が広がるようやって行こうと考えています。その他の活動について、今回のシンポジウム ケアメン・コミュニティのマネジメントで参考になる発表があれば、大いに参考にして行くつもりです。現在、行政・安佐医師会より本年秋に安佐南区文化センターにて、認知症に関するイベントの開催を実施するとの事。我々「4木の会」にこのイベント参加して欲しいとの申し出があります。個人的には、イベントには夢があり「4木の会」が主催者で大きなイベントを開催したいと思っていますが。

13. その他

現在介護者の関する支援は、何もない状況で国は在宅介護を中心に移行してするようですが現在のまま 2025 年を迎えると介護者は、大変な状況になります。我々社会資源の「男性介護者のつどい」が行政、医師会そして介護者の円滑油になれば地域に役立てる事になれば…と思います。地域の包括支援センターの業務も地域の方々は、知っていない方が多く特に男性は、身近に接する事がなく家族の中で認知症等初めて罹って慌てふためいてしまう状況です。また、在宅医の存在も解らないと言う事は不幸ですし、まだまだ介護保険に対しても不備なことが多く苛立っています。国の福祉に対する政策について考えさせられます。

★お持ちのチラシやパンフレット、広報資料等をお送りください。資料集を作成したいと思います。

男性介護者 4木の会が行ったイベント紹介

平成24年から安佐南区内の公民館と区健康長寿課と共催し、男性の視点からの介護について紹介するとともに、男性介護者の会をPRしています。

佐東公民館 平成25年3月9日(土) 10:00～11:30



【内容】

男性介護者の方のおはなし

体験談

- 4年前から90歳の母親を介護しておられるMさん。
今はディサービスや医療訪問などの介護サービスを使って在宅介護をしている。
介護を始めた頃は歩けなかった状態だったが、入院、リハビリを経て自力でトイレに行けるほど回復。日々の介護の大変さや介護を誰が担うのか等、兄弟間での葛藤はあるが困難な時代に私たち兄弟を育ててくれた恩に報いるためにも頑張っていきたい。
- 81歳の妻を介護して4年のMさん。
妻は小学校の同級生。徘徊、妄想などの症状はないが新しい記憶から徐々に薄れ、今では自分は20～30歳代と思っており、私の事を夫だと認識もはっきりしていない。
そのため排泄介助の時「助平!」と言って頬を思いっきり叩かれたりもした。
妻が認知症になって困ったことが多々ある。①トイレ介助 ②終末期にどう向き合うか
③成年後見人の設定:金融機関に認知症告知をしたため預金が凍結されたなど。介護に直面して色々な困難なことが起きる。そのためにも「知る」ことが重要。介護は突然にやってくるので…。自分も体調が良くないので、どちらが先にとの思いだが、何とか頑張っていきたい。

広島市城山北・城南地域包括センター

近年、親+未婚の子、共働き書体の増加、男女がそれぞれ自分の親を介護するように役割の変化。また、核家族化や女性の社会進出で男性介護者が増加傾向にある。
しかし、男性は介護や生活家事の経験が乏しく、近隣との付き合いも薄いため孤立しがち。新しいライフサイクル、社会構造にあった介護の仕組みが求められている。

まとめ

はじめに地域包括センターから、近年男女の割合や社会構造の変化等により男性介護者が増加している。
しかし、男性は生活家事や介護の経験が乏しく孤立しがちで虐待などの問題を起こしている。地域包括としても社協などとも連携して相談・解決に当たれるよう対応していきたいとの講演があった。

次いで4木の会員2人から介護体験談を語られた。

共に介護を始めて4年目となり、介護サービス等を使い何とか頑張っているが、本人も高齢で体調の問題、認知症特有の記憶が無くなっていくことによりコミュニケーションが取れなくなっていくことの不安、日々の介護の難しさ等について語られた。
当日は多くの参加者があり、はじめて話を聞いて介護の大変さが分かった。他の人にも話してあげたい。今後の自分に活かしたい。多数の聴衆に驚いた。今後も続けて欲しい、などの感想が寄せられた。

古市公民館 平成25年4月14日(日) 10:00~12:00



【内容】

演題 男性介護について考える

講師 中国新聞社論説委員

木ノ元 陽子さん

記者として、介護について新聞に連載記事を執筆。取材を通して得られた男性介護の現状と問題点。これを踏まえて、男性が介護する視点での制度設計の見直しや男性介護問題の社会化等が必要になると、今後の課題について講演をしていただきました。

続いて、地域包括支援センターの役割や日々の活動において感じた介護者の現状と課題について講演をしていただきました。

最後に、木ノ元さんと4木の会の妻を介護しているMさんと母親を介護されていたMさんに介護の苦労や問題点、また、それらを解消するための工夫などについてインタビュー形式で答える形で体験談を発表していただきました。

まとめ

当日は40名あまりの参加者があり、自分がやっている介護の参考になった。今日の内容を皆に知らせたい。今後もこのような講座に参加したい。たびたび聞いて欲しい。このような話を全市に紹介して欲しい。公民館にこれなかった人は何十万人もいる。等の感想が寄せられました。

URL : <http://www.megaegg.ne.jp/~murasan/ibento2.html>



【内容】

演題 家族の介護を考える
男性介護者の体験談を通して
講師 広島県立広島大学
講師 手島 洋さん

「男性介護の課題と展望を考える」というテーマでこれまでの研究と実践に基づき、男性が介護の前面に出ざるを得なくなった背景や仕事との両立、男性ならではの介護の困難さをわかりやすく説明いただきました。

また、働きながらできる介護システムの構築、そうして介護者とながらことで社会、システムの変容が期待できると「今後の展望についても講演をしていただきました。

広島高取北・安西地域包括支援センター
地域包括支援センターの業務や活動内容をわかりやすく説明していただきました。

体験談

4木の会員で78歳の妻を14年余り介護しておられるHさんに、発症から現在までに、妻が行方不明になり警察に保護された出来事など、体験を基に発表していただきました。

まとめ

高校生や大学院生など、幅広い年代の方の参加があり、活発な質疑が交わされました。



男性介護者
4木の会

会員募集

会の紹介

メンバー紹介

会員募集

例会の様子

イベント

会員ほっとサロン

介護情報

● 介護に携わる男性達！！ ●

例会では、介護の苦労話や疑問、知識・知恵などを話し合っています。

会員の中には、20年近く妻の介護に携わり、知識や経験豊富な方もいらっしゃいます。

また、看取った後も会の継続に力を貸してくださる方もいらっしゃいます。介護はゴールが見えません。しんどくなることも沢山あります。

4木の会は毎月第4木曜にご家族を介護している男性が語り合い、介護の先輩からアドバイスを得て心身をリフレッシュする場です。

介護の都合で遅れて参加や早退も可能です。是非一度お越しください。ストレス解消ときっといい仲間に出会えます。

あなたの参加をお待ちしています。

【問合せ先】 安佐南区役所 健康長寿課 ☎(082)831-4942

